令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390200228		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホームゆうゆう八木沢		
所在地	宮古市八木沢第5地割85番地1		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナウイルスが流行し、例年通りの活動ができていないが、その中でも心穏やかに過ごして頂くように、利用者様の得意な事、興味のある事に取り組んでいただくようにしている。例えば塗り絵をしたり、食事の準備・食器の片付け・洗濯物干しなど手伝って頂いている。
利用者様は高齢になっており、体調の急な変化が増えてきている。職員はバイタルとともに日頃の体調の変化に気を配り、看護師とも連携し急変に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅地にあって、同一法人の4事業所（居宅、通所、訪問、ライフサポート）が隣接する開設6年目の事業所である。特に地域との連携や交流を大切にした運営を心掛け、地域の高齢者や保育園、小・中学校との交流も盛んに行われ地域の拠点施設としての存在感も増している。今年はコロナ禍のため交流行事や利用者の外出支援がままならない状況となっているが、職員は利用者の生きがいや尊厳に配慮した介護を実践し、その人らしい日常の支援を行っている。昨年の大雨の際に利用者の適切な一時避難を実践するなど、緊急時の災害対応が的確に行われている。また、施設内の行事では、職員が「寸劇」を披露して利用者を楽しませるなどして、利用者の心を和ませる取り組みを実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 2 年度　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで唱和するなど、常に心に留めておくようにしている。	4年前に職員自らが考えて作成した「歴史と尊厳、つながりを大切にして寄り添い、見守る」の介護理念を事務室内に掲げ、毎朝のミーティングで唱和している。継続して唱和することで、職員のプロ意識が浸透し、日常のケアにおいて実践され、活かされている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため中止になっているが、地域のお祭りや地域交流会に参加し、又近隣の保育所との交流会を行っている。自治会長はじめ5名の地元の方が運営推進委員になっている。	今は、コロナ禍で休止しているが、普段であれば隣接してある法人の「ゆうゆう茶屋」で地域の方々が集う趣味活動やサロン、ゆうゆう祭り等が開催されている。また、自治会や保育園等との交流も活発に行われ、地域の踊りのボランティアも継続して来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ゆうゆう祭り」を行い、事業所の存在を広めている。茶屋も地域の方が利用できることを紹介している。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の避難場所についての情報、地区の行事への協力等、様々な意見や提案が出されサービスの向上に生かされている。	自治会長や民生委員、保育園長、消防団長等が委員となり、地域との連携を重視したバランスのよい委員構成となっている。コロナ禍で今年度は開催できていないが、早期に委員会を再開し、災害対策や身体拘束に関することなどについて説明し、ご意見を頂きたいとしている。	コロナ禍のため集合開催が困難であることは止むを得ないものの、意見や提言を得る機会として運営推進会議は有意義な存在であり、書面開催とするなど、開催方法を工夫されるよう期待します。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員の方も出席されている。地域住民の方からの質問や意見に答えるなどの情報交換もなされている。	市の担当者と地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席し、事業所の状況を把握している。普段でも地域包括支援センターとの連携を密にしており、地域住民等の質問事項や事業所の要介護認定申請の手続きなどを通じ、頻繁に情報交換している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内の研修の中で身体拘束について学んでいる。言葉（スピーチロック）も身体拘束になる事を再度確認した。	身体拘束適正化に関する指針を作成し、2ヵ月毎に運営推進会議の開催と併せて委員会を開催し、職員の研修会も年2回実施している。夜間の玄関施錠は19時から翌朝6時とし、ベッドセンサーの使用もない。スピーチロックの事例が散見されており、研修会などを開催して改善していく必要があるとしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の定義について学びどんな些細な虐待も見逃さないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所内会議の中で取り上げていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は利用者と家族が同席し、不安や疑問点がないか確認したうえで行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に要望を聞くほか、運営推進会議に利用者や家族にも参加して頂き、意見や要望を頂戴している。	ホームでの様子を毎月家族にお知らせし、家族が来訪した際には意見や要望を伺うようにしている。利用者とは夜勤時の1対1の会話や、入浴時に率直なお話を伺えることがある。乾燥肌の対応薬や水分摂取のことなどが話題になり対応した事例はあるが、運営についての意見・要望は殆どない。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の所内会議や、年一回の職員と役員の面談の際に職員からの意見や要望を聞き、事業の運営に活かしている。	毎日の申し送りや毎月の所内会議、年1回の役員との個人面談などを通じ、職員の意見や要望の把握に努めている。ポータブルトイレやリハビリパンツの使用に関すること、資格取得などの意見・要望が出され、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回、代表社員を含む役員と職員の面談を行っている。就業環境について個別に話し合っている。		

令和 2 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や、職員各々の経験年数やケアの力量に合わせた外部の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現時点ではメールや電話等の情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「その人の歴史と尊厳、つながりを大切にして寄り添い、見守ります」という介護理念の下、本人の言葉に耳を傾けたり、言葉で表現できない利用者に関しては心身の状況を観察したりして本人の安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用の前に見学に来ることを勧めている。その際や入居時に居室や浴室、トイレ等事業所内を見て頂きながら、不安や要望を聞き、そのことに具体的に答えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人、家族の他に前任のケアマネにも同席又は情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	モップ掛けや茶碗拭き、洗濯物たたみ等、利用者が自分の役割と思って行っている。職員がおやつの作り方など利用者に教えて頂き、一緒に作ることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回、事業所での本人の様子を伝える手紙を送っている。通院の付き添いをお願いしたり、利用者の対応について家族に相談したりしている。		

令和 2 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚との年賀状や暑中見舞いなどの手紙や電話のやり取りを継続できるように支援している。また、毎晩娘さんに電話する利用者には携帯電話の操作を手伝っている。	隣接のデイサービスに出かけ一緒にレクを楽しんだり、毎週来所するボランティアとの会話を楽しんでいる。理容については、訪問理容を馴染みとしている方のほか、2人は市内のいつもの美容院に出かけている。友人や親戚との毎年の年賀状の交換や携帯電話の操作を手伝ったりし、それぞれの関係が途切れない様に支援しているものの、コロナ禍のために知り合いとの交流機会がなくなっており、職員は関係性の継続支援に苦労している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席は体調や人間関係を考慮して決めている。時には職員が間に入り、潤滑油の役割をするように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された利用者のご家族が、散歩の途中に寄っていただくことがある。今後も必要に応じたフォローをしてく。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や希望を言える方だけでは無いので、表情や仕草からくみ取るように努めている。	多くの利用者が言葉で思いや意向を表現でき、テレビを見ていて、やりたいことや食べたいものの希望が出されることも多い。職員は、利用者の思いや願いを的確に把握するように努め、アセスメントを経て介護プランにも反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仏壇や家族の写真など、本人の馴染みのものを置いて頂いている。また利用者との会話の中から利用者の過ごしてきた環境や習慣を知り、それを崩さないように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日2回のバイタルチェックと排泄や食事のチェック表で身体の調子や排泄のリズムなどを確認している。ケース記録には午前・午後・夜間の過ごし方やその時の言動を記入している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人、家族の意向を確認し、介護計画を作成している。毎月の所内会議にて介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会を設けている。	ケアマネジャーが担当職員と毎月モニタリングし、毎月の所内会議でアセスメントを含め、全員で意見交換やカンファレンスを行っている。その上で、3ヵ月毎にケアマネージャーが、本人や家族の意向等も確認したうえでプランの原案を作成し、改めて職員全員によるカンファレンスで検討を経て見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別日誌を記入するほか、気づいたことはミーティングノートに記入し、職員間の情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のその時々の要望に臨機応変に対応する事を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会に利用者・職員が毎月参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの利用者も入居前からのかかりつけ医を継続している。通院時には事業所のバイタルチェック表を持参、主治医に日々の状態を伝えている。体調で気になる時は電話でかかりつけ医に相談している。	大半の利用者が入居前から利用している市内の開業医をかかりつけ医とし、通院は家族対応を基本としているが、半数以上は職員が対応している。毎週、薬剤師が来所し、利用者の様子と薬の種類と量について話し合い、必要時には担当医と相談するなどしている。看護業務はデイサービスと兼務する非常勤の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ミーティングノートを看護師と共有し、介護職が気がついたことを記入しておき、それについて処置した内容や対応の方法などを看護師が記入するようにしているほか、随時、お互いに報告と相談をしている。		

令和 2 年度　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時でもすぐに利用者の情報を医療機関に提供できるよう、利用者情報を作成している。普段の通院時にも、当日を含む数日分のバイタル表の写しを主治医に見て頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に当事業所では看取りを行うことを説明している。現在まで看取りをした利用者はいないが、終末期のあり方について職員が本人や家族と話すことができるよう、『看取り』についての研修会を実施している。	入居時に、重度化した場合の対応や看取りの取り組みについて説明している。今までに看取りの経験はなく、重度化した場合は入院や老健施設への入所となることが多い。看取りの希望があり研修も行っているが、協力医師の確保ができない状態が続いており、今後の課題となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が新任研修時に「普通救命講習」と「AEDを用いた心肺蘇生」の講習を受けている。その後も2～3年おきに講習を受け、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回、避難訓練を実施。避難について契約を締結している高台にある特別養護老人ホームまで実際に利用者全員で行ってみて、避難までの道順や場所を確認した。	2ヵ月毎に火災や洪水、地震等を想定した避難訓練を実施している。昨年の大雨の際は、実際に磯鶏小学校に一晩全員が避難し、今後のためにも良い経験となった。9人の利用者のうち、3人が車椅子使用であるため、特に夜間の避難行動に少し不安感があるとしている。	夜間想定の避難訓練を、例えば薄暮の時間帯に実施するなどして、より具体的な実践課題を把握されるよう期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族の訪問時はプライバシーを保てるよう個室で本人と過ごして頂いている。入浴は個浴となっている。排泄や入浴の介助や見守り、居室の訪問は利用者に声がけしてから行っている。	利用者の気持ちを大切に考えて、さりげない言葉かけを行っている。プライバシー確保のため、入浴やトイレ使用時にはカーテン等を用い周囲の視線から隠している。また、調理や農作業の際には、職員が利用者から要領を教わるようにして、利用者の誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えや、その日着る服など本人に選んでいただきながら職員と一緒に準備している。		

令和 2 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　**2 自己評価および外部評価結果**

事業所名 ： グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に定めず、本人のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけ本人の意思で決めて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は利用者にお願いしている。おしぼりや食器ふきなども担当して頂いている。	献立作成と調理は職員が行い、食材は生協の宅配を利用している。利用者の多くは、料理の下拵えからテーブル拭き、食器拭きなどを手伝い、事業所の前の野菜畑の作業を行う方もいる。誕生日や敬老会等では行事食を提供し、職員による「寸劇」も披露して行事と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の接種状況はチェック表を用いて確認している。体調に合わせて柔らかさ、大きさを変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促している。自分でできない利用者の歯磨きは職員が介助している。毎晩入歯洗浄剤を使用し消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるように排泄のチェック表を確認し声がけしている。パットの交換もできるだけ自分で行うよう、声がけと見守りを行っている。	排泄チェック表を参考に、自尊心に配慮しながらさりげない声掛けでトイレ誘導している。全員がリハビリパンツを使用し、オムツ使用者はいない。夜間に1人がポータブルトイレを使用している。職員の適切な声掛け誘導により、入居前より排泄状況が改善している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分摂取量ができているか、排便があるかをチェック表で確認している。排便の状態を医師に伝え、その人に合わせて便秘薬を処方してもらっている。		

令和 2 年度　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	年末年始、お盆も含め一日おきに入浴して頂いている。季節の行事としてしょうぶ湯や柚子湯に入っていただいている。	1日おきの入浴を基本としている。1人はシャワー浴だが、他は一般浴槽を使用している。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいる。入浴時は職員と1対1となる貴重な時間であり、会話も弾み、聞き取った事柄は必要に応じて職員間で情報共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全居室ベッドを備え、休みたい時に休めるようにしている。夜間何度も起きてくる利用者には、夜勤者とお茶のみしたり、おしゃべりしたり、ゆったりした時間を過ごすように似ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめており、職員がいつでも見られるようにしている。服薬とバイタルチェック表を用いて、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や団子作り、洗濯干しなど得意な事や興味があることを先生になってもらい、職員と行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候により散歩やドライブなどを行っている。	コロナ禍のために外出制限を行わざるを得ず、ほとんど外出できない状況にあり、苦労している。それでも、イライラした様子が見られる等の場合には、少人数のミニドライブで浄土ヶ浜等に出かけたり、近所にある地蔵堂までの散歩に出かけて気分転換している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金は事務室の金庫内に保管している。利用者から買いたいものがあればその都度職員が買ってきたり、職員が付き添って買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に電話を掛ける手伝いをしたり、手紙の代筆をしている。携帯電話をお持ちの方には操作を手伝っている。		

令和　２　年度　　2　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　グループホームゆうゆう八木沢

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	１日2回、温度と湿度を確認し、室温は２３度～２５度、湿度は４０～６０％になるよう、エアコンや加湿器を調整している。	吹き抜けの広い食堂兼ホールはエアコンで温度・湿度が管理され、明るく清潔である。壁面には季節を感じる飾りつけや、利用者の塗り絵や貼絵の作品も展示されている。利用者は、ソファーやテーブルで笑顔で語り合ったり居眠りしたりと、思い思いの時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いている。ソファ以外にテーブルがあり、その時の気分で好きな場所に座り、テレビを見たり、塗り絵をしたり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとチェストは事業所で準備した。それ以外は本人と家族が持ち込んでいる。仏壇や位牌を置いていたり、ぬいぐるみや家族の写真を飾ったりそれぞれの利用者らしい居室になっている。	居室の扉は軽い力で開閉できる吊り戸であり、配慮が窺える。ベッドとチェスト、エアコンが備付けており、利用者はテレビや衣装ケース、家族写真、仏壇等を持ち込み、壁には写真や塗り絵作品等を飾って、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が無く、居室の扉も軽い力で開閉できる吊り戸である。歯磨きコップなど定位置に置いて自分から歯磨きをしたり、廊下の手すりを使い、歩行練習をしている。		